

学位論文審査結果の要旨

学位申請者 氏名	藤原恭司 1016
審査委員	主査 鹿児島大学 教授 本村浩之
	副査 鹿児島大学 教授 寺田竜太
	副査 鹿児島大学 教授 山本智子
	副査 鹿児島大学 准教授 坂巻祥孝
	副査 鹿児島大学 准教授 久米元
審査協力者	印
題目	Systematics of the clingfish subfamily Diademichthyinae (Gobiesocidae) (ウバウオ科ハシナガウバウオ亜科魚類の分類学的研究)

ウバウオ科魚類は三大洋に9亜科約50属190種が知られている。本研究では、形態学的・分子系統学的手法により、インド・太平洋産ウバウオ科魚類の1亜科 Diademichthyinae Whitley, 1950ハシナガウバウオ亜科（新称）の分類学的検討を行った。本研究により、3新属と10新種を含む14属29種を本亜科に認め、本亜科を以下の5形質により新たに定義した：(1) 上顎歯は様々な形態だが、常に先端がフック状に曲がる；(2) 眼前感覚孔が0または2個（通常2個）；(3) 第1-3鰓弓にそれぞれ2組の鰓葉をそなえる；(4) 吸盤中央（吸盤が2つに分かれる場合は、前方の吸盤の後部）に平坦な吸盤突起をもたない；(5) 腰帯の後端と下後鎖骨前縁間が複雑に接続する。

Lepadichthys Waite, 1904ミサキウバウオ属は、複数の構成種が本属の形質を有さず、また、近年のウバウオ科における包括的な分子系統学的研究からも本属が多系統分類群であることが明らかとなっていた。本研究によるミサキウバウオ属の骨学的特徴を含む詳細な形態調査によって、本属は「真」のミサキウバウオ属を含む5属に分類された。各属は頭部感覚孔の開孔パターン、口部の特徴、前上顎

骨と下顎歯の形態、吸盤の大きさ、尾部骨格、および色彩パターンによって互いに識別される。本研究では、5属のうち3属 [*Flabellicauda* アカスジウバウオ属 (新称)、*Pseudolepadichthys* ミナミウバウオ属 (新称)、および *Rhinorhynchichthys* タスジウミシダウバウオ属 (新称)] を新属として記載した。また、矮小種である *Lepadichthys minor* Briggs, 1955 アマツミウバウオ (新称) は、本研究で再定義した *Lepadicyathus* Prokofiev, 2005 アマツミウバウオ属 (新称) に変帰され、*Lepadicyathus mendeleevi* Prokofiev, 2005 の古参異名であることが明らかになった。これらの分類学的整理によって、真のミサキウバウオ属には以下の9名義種が含まれ、6種が有効であることが明らかになった [*L. coccinotaenia*, *L. ctenion* (新参異名: *L. bilineatus*)、*L. conwayi*, *L. erythraeus*, *L. frenatus*、および *L. misakius* ミサキウバウオ (新参異名: *L. sandaracatus* と *L. springeri*)]。

さらに本研究によって、*Unguitrema nigrum* Fricke, 2014 (単型属 *Unguitrema* のタイプ種)、*Discotrema monogrammum*、および *Discotrema zonatum* Craig & Randall, 2008 の3名義種は同種であることが明らかになり、*D. monogrammum* を有効な古参異名と見なした。その結果、*Unguitrema* Fricke, 2014 は *Discotrema* Briggs, 1976 に含められた。また、*Liobranchia* Briggs, 1955 は *Aspasmodes* Smith, 1957 と *Pheral lodichthys* Shiogaki & Dotsu, 1983 メシマウバウオ属 (3名義属とも単型属) の古参異名であると思われ、*Aspasmodes* と *Pheral lodichthys* のタイプ種である *Aspasmodes briggsi* Smith, 1957 と *Pheral lodichthys meshimaensis* Shiogaki & Dotsu, 1983 も *Liobranchia stria* Briggs, 1955 と同種であることが明らかになった。

本研究では、ハシナガウバウオ亜科魚類の亜科の特徴、各属と種の特徴、記載、異名関係、分布域、生態学的特徴、および検索表を示した。このように、本研究では膨大な一般標本とタイプ標本に基づき、属の再構築や多くの学名変更を伴う分類学的検討を実施した。この結果、本科魚類は外部形態による正しい種同定が可能となった。この研究成果は魚類学のみならず、海洋生物学の基礎的知見として多大な貢献をすることが期待される。よって本論文は、学位論文として十分な価値があるものと判定した。